

第2回C分科会名簿

【気仙沼市デジタル水産業推進協議会C分科会員】

NO.	区分	所属	職名等	氏名	摘要
1	分科会長	アサヤ株式会社	代表取締役社長	廣野 一 誠	会場出席
2	副分科会長	株式会社阿部長商店	業務統括部 部長	菅原 圭 介	欠席
3	学識経験者	東京海洋大学	海洋生命科学部 教授	東 海 正	オンライン
4	各種団体 ・企業 (所属名順)	アナハゼティ		加藤 隆 介	会場出席
5		アナハゼティ		吉川 直 哉	会場出席
6		株式会社石渡商店・ 気仙沼水産資源活用研究会	代表取締役社長・ 会長	石渡 久 師	欠席
7		気仙沼観光推進機構 (事務局：一般社団法人気仙沼地域戦略)	事務局長	小松 志 大	オンライン
8		気仙沼商工会議所	総務課長兼デジタル化 推進室長	佐藤 淳 一	会場出席
9		気仙沼市物産振興協会	事務局長	高橋 ちひろ	会場出席
10		気仙沼信用金庫	常勤理事	加藤 将 一	欠席
11		気仙沼つばき会・ 一般社団法人歓迎プロデュース	副会長・ 代表理事	小野寺 紀 子	
12		株式会社八葉水産	経営企画室 部長	清水 健 佑	会場出席
13		株式会社ヤマヨ水産	代表取締役	小松 武	欠席
14	関係 行政機関	宮城県気仙沼地方振興事務所水産漁港部	技術副参事 兼総括技術次長	鈴木 永 二	オンライン代理出席 漁港管理班：菅原主任主査 漁業調整班：杉本技術主幹（班 長） 水産振興班：村上技師
15	気仙沼市	気仙沼市	市長	菅原 茂	
16		気仙沼市	デジタル補佐官	種子野 亮	

【事務局】

NO.	区分	所属	職名等	氏名	摘要
1	気仙沼市	産業部水産課	課長	齋藤 英 敏	
2		産業部水産課水産基盤係	技術主幹兼係長	吉田 和 史	
3		産業部水産課漁業振興係	主幹兼係長	小野寺 幸 史	
4		産業部水産課漁業振興係	主幹	佐藤 吉	

気仙沼市デジタル水産業推進協議会 第3回C分科会

日時： 令和6年1月15日(月)午前10時00分～

場所： 気仙沼市ワン・テン庁舎 大ホール

次 第

1 開 会

2 挨拶

3 出席者紹介

4 報 告

(1)前回の振り返りについて

5 協 議

(1)海業振興・情報発信に向けたワークショップ

6 そ の 他

7 閉 会

【配布資料】

1 次第(本紙)

2 出席者名簿

3 説明資料

4 説明資料 別添参照1・2

第3回C分科会名簿

【気仙沼市デジタル水産業推進協議会C分科会員】

NO.	区分	所属	職名等	氏名	摘要
1	分科会長	アサヤ株式会社	代表取締役社長	廣野 一 誠	会場出席
2	副分科会長	株式会社阿部長商店	業務統括部 部長	菅原 圭 介	欠席
3	学識経験者	東京海洋大学	海洋生命科学部 教授	東海 正	オンライン
4	各種団体・企業 (所属名順)	アナハゼティ		加藤 隆 介	会場出席
5		アナハゼティ		吉川 直 哉	会場出席
6		株式会社石渡商店・ 気仙沼水産資源活用研究会	代表取締役社長・ 会長	石渡 久 師	欠席
7		気仙沼観光推進機構 (事務局：一般社団法人気仙沼地域戦略)	事務局長	小松 志 大	オンライン
8		気仙沼商工会議所	総務課長兼デジタル化 推進室長	佐藤 淳 一	会場出席
9		気仙沼市物産振興協会	事務局長	高橋 ちひろ	会場出席
10		気仙沼信用金庫	常勤理事	加藤 将 一	欠席
11		気仙沼つばき会・ 一般社団法人歓迎プロデュース	副会長・ 代表理事	小野寺 紀 子	欠席
12		株式会社八葉水産	経営企画室 部長	清水 健 佑	会場出席
13		株式会社ヤマヨ水産	代表取締役	小松 武	欠席
14	関係 行政機関	宮城県気仙沼地方振興事務所水産漁港部	技術副参事 兼総括技術次長	鈴木 永 二	オンライン代理出席 漁港管理班：菅原主任主査 漁業調整班：杉本技術主幹 (班長) 水産振興班：村上技師
15	気仙沼市	気仙沼市	市長	菅原 茂	会場出席
16		気仙沼市	デジタル補佐官	種子野 亮	オンライン

【事務局】

NO.	区分	所属	職名等	氏名	摘要
1	気仙沼市	産業部水産課	課長	齋藤 英 敏	
2		産業部水産課水産基盤係	技術主幹兼係長	吉田 和 史	
3		産業部水産課漁業振興係	主幹兼係長	小野寺 幸 史	
4		産業部水産課漁業振興係	主幹	佐藤 吉	



気仙沼市デジタル水産業推進協議会 第3回C分科会説明資料

令和6年1月15日（金）

13:00～15:00

1 . 報告 前回の振り返り

別添参照 1 : 議事録

2 . 報告 検討スケジュール（年次）

令和5年度

- 「みんなの港」の全体像と検討の目的の確認
 - 海業に関連して収集・発信する情報の整理
 - 情報発信するターゲットの整理

令和6年度

- 「みんなの港」の部分運用（システム実装）に向けた条件整理

令和7年度

- 「みんなの港」の一部の運用（システム実装）開始
- 「みんなの港」の拡張に向けた条件整理

令和8年度

- 「みんなの港」の拡張部分の運用（システム実装）開始

第1回分科会で挙げていただいた意見のうち、
どれか一つでも具体化をさせたい

3 . 報告 分科会の議論の位置づけ

第1回（前々回） ... 委員のみなさんのイメージ共有

第2回（前回） ... 第1回の議論をもとにした検討フレームの整理・確認

「R7-2：みんなの港（仮称）」とは...

（1）機能として2つのものがある

様々な情報を入力し蓄積する

それを変換し発信する

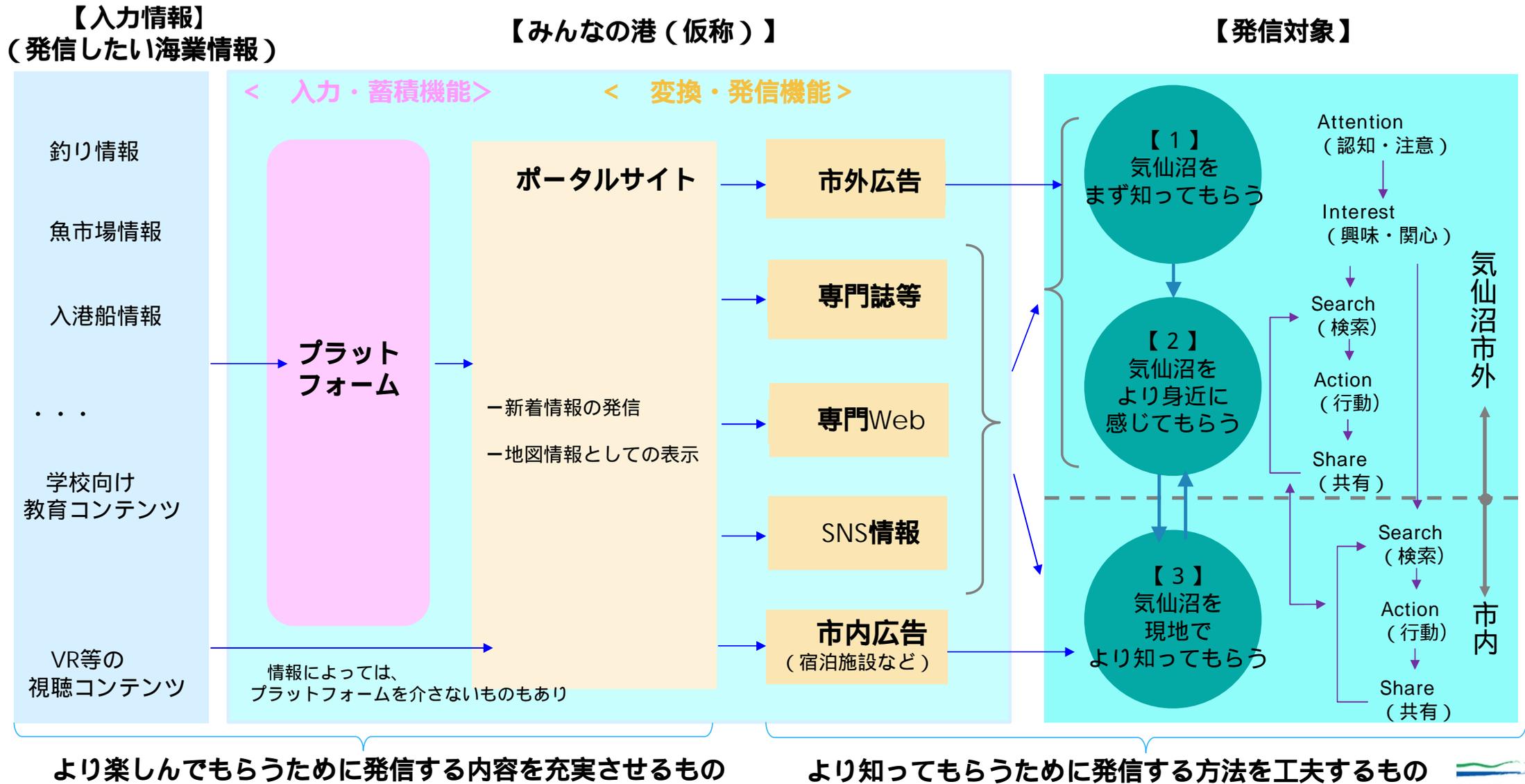
（2）発信する情報に2つのものがある

より知ってもらうために発信する方法を工夫する

より楽しんでもらうために発信する内容を充実させる

第3回（今回） ... 第2回のフレームをもとにした具体的な情報発信の方法の検討（ワークショップ）

4. 報告 【みんなの港（仮称）】の概念整理



6. 報告 発信する情報の候補（第2回分科会で出されたものを追加）

No.	取組概要	発信する情報		みんなの港	ターゲット		効果的な発信方法の例	行政以外の推進主体となりえる者 事務局想定
		内容	収集等の容易性 ¹		主要なもの	ボリューム ²		
1	釣りゲーム	気仙沼でとれる魚 →ゲームで釣った魚がギフトで届く	×		釣り初心者			
2	気仙沼港疑似体験	VR、メタバースによる気仙沼の紹介	×		一般			
3	釣りに関する情報	わかりやすく釣りを教えてくれる人			釣り初心者			ユーチューバーなど
4		わかりやすい漁業規則			釣り人全般		主な釣り場での掲示	ユーチューバーなど
5		釣りができるスポット			釣り人全般			ユーチューバーなど
6		釣った魚を調理できる場所			釣り人全般（遠征者）			
7		筏を使った釣り堀	×		釣り初心者、家族連れ			
8		SUPとの連携			釣り初心者、家族連れ			
9		生分解性の漁具の利用 環境にやさしい釣りの推進 気仙沼の環境への貢献			釣り初心者、一般			
10	漁業を知る情報	レストランと養殖業の連携	×		一般			飲食業、漁業者など
11	魚市場に関する情報	魚市場めぐりのPR 高度衛生管理棟の活用			一般、特に宿泊客		ホテルにおける掲示	漁協、宿泊先など
12	水揚げ情報	水揚げ情報			一般、特に宿泊客		ホテルにおける掲示	漁協、宿泊先など
13	入港船に関する情報	航行履歴または航行予定 出船送り / 帰港船の出迎え	△	⇔	一般	★★★		漁港利用協議会など
14	内湾の駐車場情報	漁港区域における自家用車等の駐車可否			一般			漁港利用協議会など
15		沖合の船の様子 / その船から見える景色	×		一般			船主など
16	学校向け教育情報	震災と復興まちづくり / 気仙沼でとれる魚			中学生、高校生 (団体、修学旅行等)		学校への直依頼	観光協会など

1: 収集等の容易性 …○: 市で一定把握済のもの、△: 関係者へ協力依頼することで得られる可能性の高いもの、×: 発信する情報そのものを新たに企画・製作する必要があるもの
2: ボリューム …(多い・大きい) (少ない・小さい) / > (さらに少ない・小さい)

7. 協議 協議事項

Q1：前頁「収集等の容易性」で「○」のものについて、
具体的に発信していく場合、発信する情報の内容や、発信する方法としてどんなものが想定されるか。
発信するうえでの課題は何か。
必ずしもデジタルによる必要はない。

No.4 わかりやすい漁業規則

宮城県のサイト「海釣りを楽しむ皆さんへ」（下記）を参考に、
釣り初心者向けに、どのような情報を、どのように発信することが望ましいか。
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/suishin/umiduri.html>

No.12 魚市場めぐりのPR / 高度衛生管理棟の活用 No.14 水揚げ情報

魚市場は朝に見学することで、水揚げ等も多くみることができる。
宿泊客向けに、どのような情報を、どのように発信することが望ましいか。

No.15 学校向け教育情報（参考）

（修学旅行向けの学習コンテンツは一定構築済み。
上記No.12や14を通じて、気仙沼の特徴をさらに体験してもらうことを目指す。）

7. 協議 協議事項

Q2：前々頁「収集等の容易性」で「△」や「×」のものについて、
具体的に発信していく場合、発信する情報の内容や、発信する方法としてどんなものが想定されるか。
発信するうえでの課題は何か。
必ずしもデジタルによる必要はない。

Q3：前々頁以外のもので、海業として発信したいものはあるか。

(参考) 海業の範囲 第1回分科会資料より

区分	水産庁	気仙沼市
渚泊・体験・観光関係	○	○
釣り・マリンレジャー	○	○
飲食・販売・加工関係	○	○
漁港を利用した増養殖関係	○	
海洋教育(水産×教育)		○
海洋プラ対策・浜清掃(水産×環境)		○
スローフード・スローシティ (水産×まちづくり)		○

ワークショップについて

WSの目的

海業について発信する際の、対象・内容・方法 その課題

本日のWS議論テーマ

Q1:スライド6ページ「収集等の容易性」で「**○**」のものについて、具体的に発信していく場合、発信する情報の内容や、発信する方法としてどんなものが想定されるか。発信するうえでの課題は何か。

必ずしもデジタルによる必要はない。

Q2:スライド6ページ「収集等の容易性」で「**○**」や「**×**」のものについて、具体的に発信していく場合、発信する情報の内容や、発信する方法としてどんなものが想定されるか。発信するうえでの課題は何か。

必ずしもデジタルによる必要はない。

Q3:それ以外のもので、海業として発信したいものはあるか。

8. WSの進め方

■模造紙と付箋を使います。

(オンラインチームはファシリテータがパワーポイントを使って進行します)

□発信する対象
(だれに)



きいろの付箋

□発信する内容
(なにを)



あおの付箋

□発信する方法・媒体
(どうやって、いつ・どれくらいの頻度で)



みどりの付箋

□発信するうえでの課題
(決める必要のあること)



あかの付箋

1つの意見につき、1つの付箋を使ってください。

8. WSの進め方

< 討議の進め方 > 各Qごとに

1 各自で付箋に記入（10分）

◆ 各自で付箋に記入をしてください。

- だれに（対象）
- なにを（内容）
- どうやって（媒体・頻度）
- 課題



	だれに	なにを	どうやって (媒体・頻度)
漁業規則			
魚市場			
水揚げ 情報			

2 テーブル内で付箋について共有（10分）

- ◆ 各自で記入した付箋をお一人ずつ順に共有してください。（お一人1分程度でお願いいたします）
- ◆ よく似た意見は模造紙上で近くに配置してください。（グループ化します）

3 テーブルで議論（10分）

- ◆ 発信してくうえで特に課題になること、優先的に決めていかなければならいことは何か？
（理由とともに）

8つのテーマの現在位置の確認

○:既存の類似事例等のあるもの、▲:検討が必要な課題

分科会	検討テーマ				条件整理			システム化	デジタル化	備考
	番号	タイトル	中項目	小項目	仕組みの構築にあたって必要な情報を整理すること			取組みについて体系的に整理を行い、仕組みとして構築すること	システム化されたものを、デジタルによって効率化すること	
					取組みへのニーズ	取組みの受益者	受益者の意向	技術的制約 法的制約	技術的制約 法的制約	
A	R6-1	洋上支援デジタル基盤-Phase1-	漁労長支援	漁場形成予測	・効率よく魚を獲りたい・見つけたい	船主及び船員	ニーズあり	○エビスくん ▲エビスくんの機能拡張	(既存事例で解決されるものが多い)	※12 海里外のデジタル回線の通信許諾が必要
			船長(衛生管理者)支援	洋上診療	・洋上での診療を実現したい	船主及び船員	ニーズあり	○内航船向けのサービス ▲洋上からのニーズに応える診療体制整備 ▲オンライン診療の報酬の扱い	(既存事例で解決されるものが多い)	(同上)
			船長支援	航路最適選択(省エネ)	・効率よく航行したい	船主及び船員	ニーズあり	○「海天」 ○ウェザーニュース ○日本郵船や商船三井のシステム ▲漁船側のアクチュエータ(作動装置)の開発	(既存事例で解決されるものが多い)	(同上)
			機関長支援	冷凍機の取扱支援	・機関長の担い手を増やしたい ・機関場で最も扱いが難しい	船主及び船員	ニーズあり	▲AIによる深層学習(教師データの入手) ▲洋上からのニーズに応える専門家体制整備	▲AIによる深層学習(教師データの入手)	(同上)
				機関部における会話	・騒音を軽減して、就業環境を改善したい	船主及び船員	ニーズあり	○既存の技術で対応可(ヘッドセット等の技術は開発済) ▲洋上からのニーズに応える専門家体制整備	(既存事例で解決されるものが多い)	(同上)
			乗組員支援	通信環境の充実(例:スマートフォン等の利用)	・船員の洋上生活を改善したい	船員	ニーズあり	○既存の技術で対応可(スマートフォン等)	(既存事例で解決されるものが多い)	(同上)
				洋上投票	・洋上投票制度と通信インフラ(デジタル回線)を適合させたい	船員	ニーズあり	▲既存の洋上投票は衆議院議員の総選挙及び参議院議員の通常選挙のみが対象	▲洋上投票用の資機材(ファクシミリ)のデジタル回線への対応	(同上)
				デジタル船	・船員に係る行政手続きの効	船員	ニーズあり	○船員手帳の交付の仕組みはあり	▲国土交通省海事局においてデジタ	(同上)

別添

分科会	検討テーマ				条件整理			システム化	デジタル化	備考
	番号	タイトル	中項目	小項目	仕組みの構築にあたって必要な情報を整理すること			取組みについて体系的に整理を行い、仕組みとして構築すること	システム化されたものを、デジタルによって効率化すること	
					取組みへのニーズ	取組みの受益者	受益者の意向	技術的制約 法的制約	技術的制約 法的制約	
				員手帳の導入	率化させたい				ル化を検討中	
				労働時間管理の電子化・効率化	・船員の労務管理が必要	船員	ニーズあり	○労働時間管理仕組みはあり	▲国土交通省海事局においてデジタル化を検討中	(同上)
				産業医による巡視	・船員の健康管理が必要	船員	ニーズあり	○オンライン巡視等の技術は構築済	(既存事例で解決されるものが多い)	(同上)
			その他	海技士免許の洋上取得	・免許取得の効率改善をしたい	船員	ニーズあり	○オンライン試験棟の技術は構築済(海技士更新講習のオンライン講習はすでにある)	(既存事例で解決されるものが多い)	(同上)
				船舶のオンライン監視	・操業の安全航行を確保したい	船主及び船員	ニーズあり	○南太平洋の島しょ国で義務づけられつつある	(既存事例で解決されるものが多い)	
	R7-1	海洋観測データによる漁業支援システム	漁場形成予測 (R6-1、R6-3、R8-1へ統合)	—	・現在のエビス君をもっと有用にしたい	船主及び船員	ニーズあり	—	—	—
			航路最適選択 (R6-1へ統合)	—	・現在のエビス君をもっと有用にしたい	船主及び船員	ニーズあり	—	—	—
B	R6-2	漁業／水産／海業求人ポータル・人材バンク	繁閑調整		・繁忙期の人手で確保したい	沿岸漁業者	未把握	○「TRITON JOB SPOT」 ▲「TRITON JOB SPOT」の気仙沼版の構築(情報の管理体制の構築)	(既存事例で解決されるものが多い)	※小型船漁業, 養殖業, 定置業の魚業種別の必要人数, 充足数, 不足数などの把握が必要
			担い手確保		・担い手を確保したい	沿岸漁業者	未把握	○「TRITON JOB SPOT」 ○「ジョイントワークス協同組合」 ▲「TRITON JOB SPOT」の気仙沼版の構築(情報の管理体制の構築) ▲担い手の受入れ体制	(既存事例で解決されるものが多い)	—

別添

分科会	検討テーマ				条件整理			システム化	デジタル化	備考
	番号	タイトル	中項目	小項目	仕組みの構築にあたって必要な情報を整理すること			取組みについて体系的に整理を行い、仕組みとして構築すること	システム化されたものを、デジタルによって効率化すること	
					取組みへのニーズ	取組みの受益者	受益者の意向	技術的制約 法的制約	技術的制約 法的制約	
	R8-1	海の”見える化”・海況データ共有基盤	定置網の確実性向上		・定置網の確実性を向上させたい	沿岸漁業者	未把握	▲AIによる深層学習(教師データの入手)	▲AIによる深層学習(教師データの入手)	※通信環境は既存の技術で対応可(通信回線・データ蓄積方法)
			養殖の確実性向上		・養殖の確実性を向上させたい	沿岸漁業者	未把握	○既存の技術で対応可(スマートブイによる水温・栄養塩・照度等の計測技術等)	(既存事例で解決されるものが多い)	※通信環境は既存の技術で対応可(通信回線・データ蓄積方法)
			密漁・海難事故防止		・密漁・海難事故を防止したい	沿岸漁業者	未把握	○既存の技術で対応可(カメラ等) ▲情報の管理体制	(既存事例で解決されるものが多い)	※通信環境は既存の技術で対応可(通信回線・データ蓄積方法)
C	R7-2	海業振興情報発信基盤“みんなの港”			・多様な海業コンテンツを効率よく発信したい ・新しい海業コンテンツを推進したい	市	ニーズあり	○「気仙沼さ来てけらいん！」 ▲情報の発信先と発信方法 ▲発信する情報の収集・管理・発信体制	▲発信する情報のデータベース化(例:船舶の情報など、海業コンテンツとあわせて検討が必要)	
D	R7-3	デジタルハーバermanagementシステム			・現況のまま漁港管理を続けたい ・管理方法を人からデジタルにしたい	県・市	ニーズあり	○東京マーチス ▲AISの稼働など入港時のルール ▲係船状況の把握方法	▲係船状況のデータベース化(現在は人が現地確認しているものを効率化)	
E	R6-3	水産行政・研究データ基盤			・漁獲情報・市況情報のオープン化を目指したい ・タイムリーな資源管理・解析・評価に繋げたい	国・県・市	ニーズあり	○「漁獲報告システム」 ▲収集する情報の種類と公開範囲(水揚げ情報だけでなく、漁場情報も対象とするか等)	(既存事例で解決されるものが多い)	
	R8-2	水産バリューチェーン情報連携プラットフォーム			・水産業全体で安定的な利益を生み出したい	市内水産事業者	研究会にて把握中	▲収集する情報の種類と公開範囲	(効率化できるポイントを研究会で検討することが必要)	